

事業番号 C-1-1						
事業名 農用地災害復旧関連区画整理事業（復興基盤総合整備事業）（山田町）山田地区						
事業費 総額 28.1 億円（国費 21.8 億円） 〔内訳：工事費 25.4 億円、測量試験費 2.6 億円（うち換地費 0.7 億円）、用地補償費 0.1 億円、〕						
事業期間 平成 24 年度 ～ 令和 3 年度						
<p>事業目的</p> <p>本地区は、2 級河川の川沿いや山田湾等海沿いに展開する水田地帯であるが、被災前は標準区画 10a 程度と狭小で、耕作道は幅員が狭く水路断面も狭小なため、営農に支障を来している状況であった。</p> <p>このような中、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災津波により甚大な被害を受け、一刻も早い復旧が望まれる一方で、もともと脆弱であった経営基盤の強化を図る必要があった。</p> <p>これらを解決するため、本事業によって高生産性ほ場を造成し、営農と維持管理の省力化を図ると共に、営農組織への農地利用集積を推進し、農業経営の安定を図るもの。</p> <p>事業地区</p> <p>山田町 山田地区（豊間根、織笠、小谷鳥、大浦、大沢）※別紙の図面・写真を参照</p>						
事業結果〔整備概要〕						
工種	工 区 名					計
	豊間根	織 笠	小谷鳥	大 浦	大 沢	
区画整理	40ha	18ha	8ha	6ha	4ha	76ha
事業の実績に関する評価						
① 事業結果の活用状況に関して						
〔調査・分析〕						
○ 災害復旧と一体的に、区画形質の改善（標準区画 10a→30a）、用排水路と農道の整備、換地による農地集団化（1 団地当たり面積：約 20a→48a 等）を併せ行うことによって、生産コスト低減や農地利用集積等により農業経営の基盤強化を図ることができた。						
○ 本地区の基幹作物は水稲であることから、稲作中心の大型機械化体系の確立及び農地集団化による省力化を図るとともに、大豆等の転作作物（約 20ha）を取り入れるなど、複合経営化を進め農業経営の安定化を図ることができた。						
〔評価〕						
上記のとおり、本事業によって、区画形質の改善や用排水路と農道の整備等を実施したことによって、農業経営の基盤を図られたことから、本事業は目的に即した効果を発揮していると判断する。						
② コストに関して						
〔調査・分析〕						
○ 事業費積算については、土地改良工事積算基準等の算定根拠を用いていること、また、岩手県会計規則等に基づき契約事務を行った。						

- 他の復興関連工事で発生した残土を盛土材として活用するなど、コスト縮減に努めながら事業を進めた。

[評価]

上記のとおり、会計規則等に基づく契約手続きを経て実施された事業であり、他の復興関連工事で発生した残土を盛土材として活用するなど、コスト縮減に努めていることから、本事業に要したコストは妥当と判断する。

③ 事業手法に関して

[調査・分析]

	想定事業期間	実際の事業期間
測量・設計・調査	平成24年度～令和元年度	平成24年度～令和元年度
工 事	平成24年度～令和2年度	平成24年度～令和2年度
換 地	平成24年度～令和2年度	平成24年度～令和3年度

- 令和2年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、換地計画に係る権利者への説明会の実施を延期したことにより、時間を要したが、関係機関等との調整を適切に行い、円滑な事業執行に努めた。

[評価]

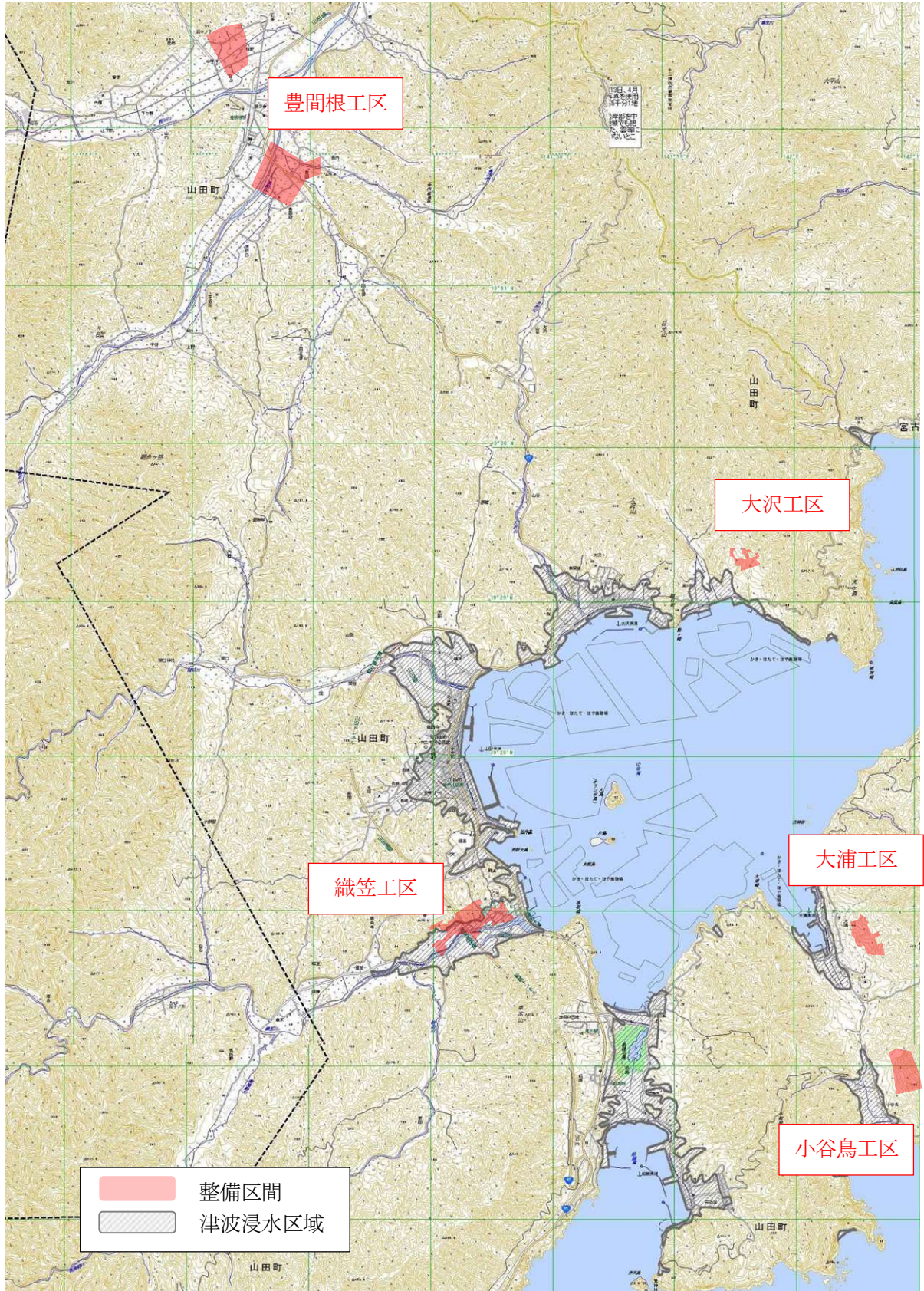
上記のとおり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、やむを得ない事業期間の延伸が生じたものの、関係機関等と調整を図りながら、円滑な事業の実施に努めており、事業の手法は妥当であったと判断する。

事業担当部局

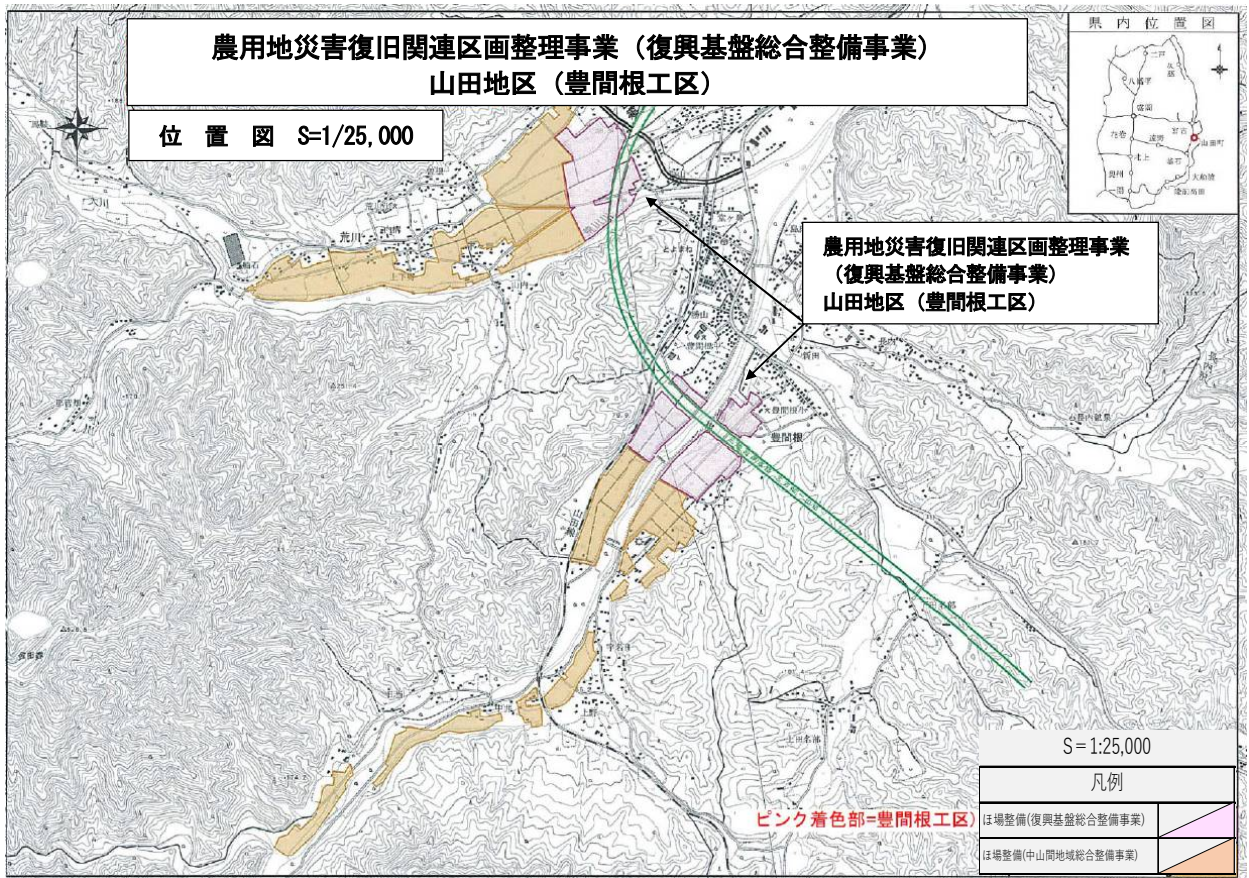
岩手県 農林水産部 農村建設課 電話番号：019-629-5682

C-1-1 農用地災害復旧関連区画整理事業（復興基盤総合整備事業）
（山田町）山田地区

【整備区間と津波浸水区域】



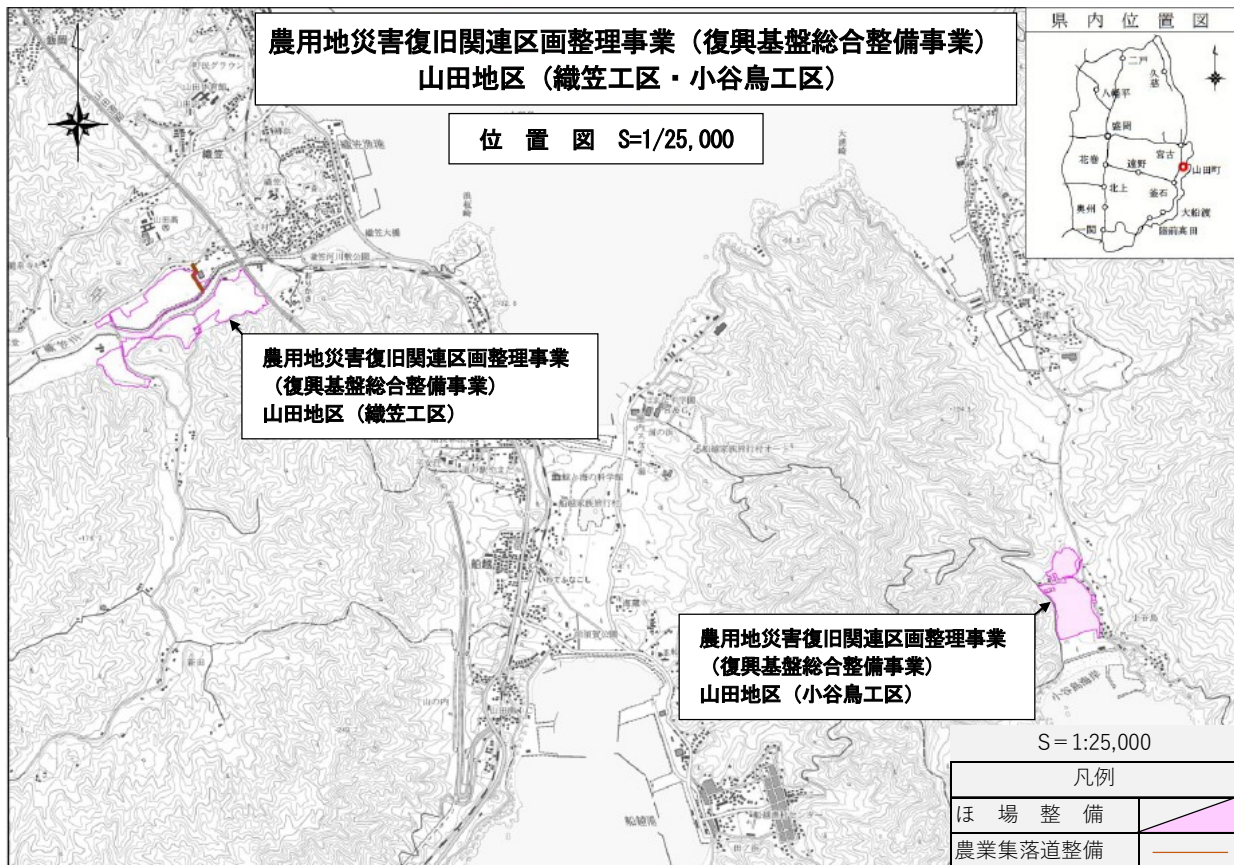
※津波浸水区域図は、国土地理院の2.5万分1浸水範囲概況図(岩手県版)を引用
事業計画図【豊間根工区】



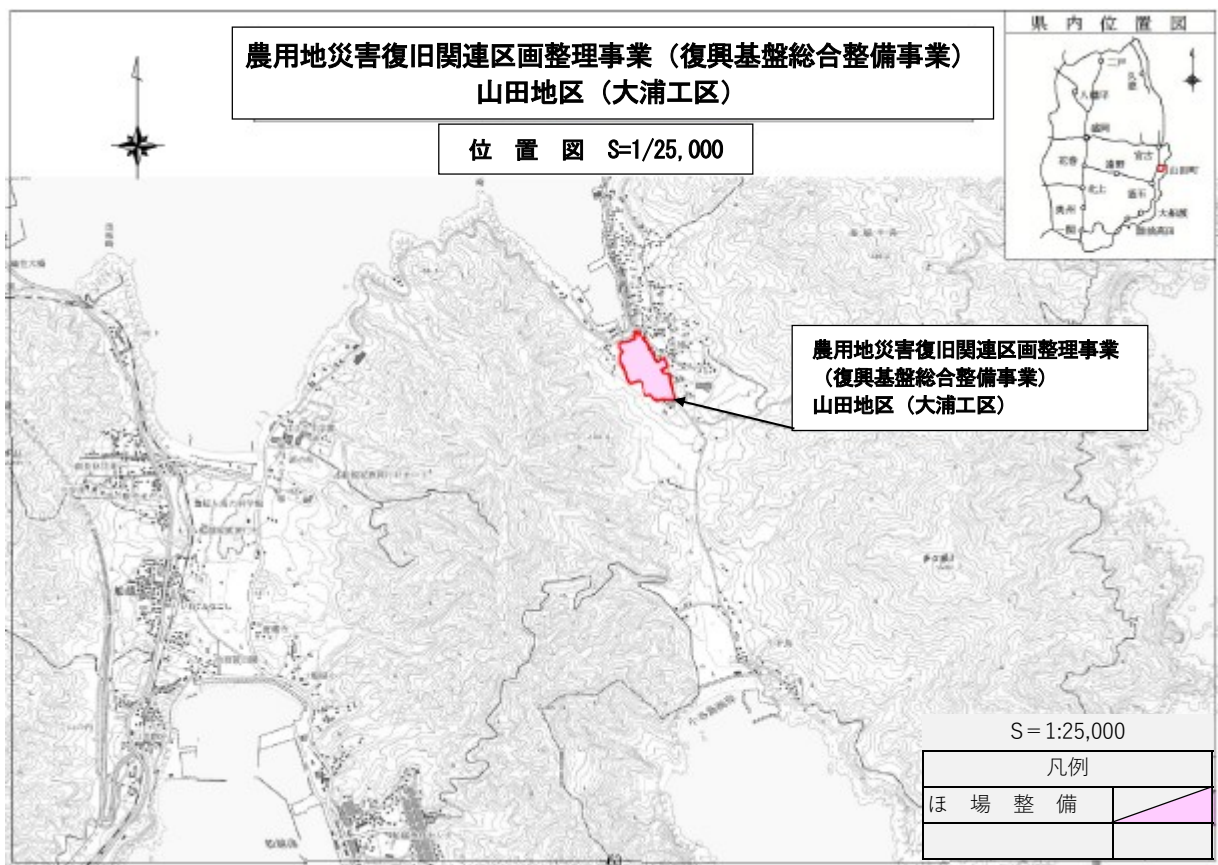
事業計画図【大沢工区】



事業計画図【織笠工区・小谷鳥工区】



事業計画図【大浦工区】



【整備前の被災状況（豊間根工区）】

(写真)



【整備後の状況（豊間根工区）】

(写真)



【整備前の被災状況（大沢工区）】

(写真)



【整備後の状況（大沢工区）】

(写真)



【整備前の被災状況（織笠工区）】

(写真)



【整備後の状況（織笠工区）】

(写真)



【整備前の被災状況（小谷鳥工区）】

(写真)



【整備後の状況（小谷鳥工区）】

(写真)



【整備前の被災状況（大浦工区）】

(写真)



【整備後の状況（大浦工区）】

(写真)



事業番号	D-1-6
事業名	まちづくり連携道路整備事業（大沢地区）（主）重茂半島線 大沢～浜川目
事業費	総額 50.1 億円（国費 41.3 億円） （内訳：測量試験費 6.3 億円、用地補償費 0.5 億円、工事費 43.3 億円）
事業期間	平成 24 年度～令和 2 年度
事業目的	<p>主要地方道重茂半島線は、重茂半島を周回する唯一の道路であり、岩手県では三陸復興道路整備事業における復興関連道路に位置付けしている。</p> <p>東日本大震災津波により現県道が被災したことに伴い、重茂半島の住民が孤立しライフラインの復旧にも多大な時間を要したことから、東日本大震災津波の浸水区域を回避し、同規模の津波が発生した場合でも浸水しない道路を整備するによって、災害時等における確実な緊急輸送や代替機能等の確保を図るもの。</p>
事業地区	山田町 大沢～浜川目地区 ※別紙の図面・写真を参照
事業結果〔整備概要〕	<ul style="list-style-type: none">○ 整備延長 2.8km○ 全幅 9.5m 車道幅 5.5m 2車線○ 主要構造物：トンネル○ 令和 2 年 3 月供用
事業の実績に関する評価	<p>① 事業結果の活用状況に関して</p> <p>[調査・分析]</p> <p>今回、津波浸水区域を避けた災害に強い道路整備を行うことによって、災害時等における確実な緊急輸送等が可能な道路が確保できた。</p> <p>[評価]</p> <p>上記のとおり、本事業によって、津波浸水区域を避けた道路が整備され、災害時における緊急輸送路等の確保が図られたことから、本事業は事業目的に即した効果を発揮していると判断する。</p> <p>② コストに関して</p> <p>[調査・分析]</p> <ul style="list-style-type: none">○ 岩手県会計規則等に基づき契約手続きを行っており、事業費積算においては土木工事標準積算基準等の算定根拠を用いている。○ 資材労務単価等の上昇により、当初想定した事業費から増額となったが、土砂運搬先の見直しを実施する等コスト縮減に努めながら事業を進めた。 <p>[評価]</p> <p>上記のとおり、会計規則等に基づく契約手続きを経て実施された事業であり、土砂運搬先の見直しを実施する等、コスト縮減に努めていることから、本事業に要したコストは妥当と判断する。</p>

③ 事業手法に関して

[調査・分析]

	想定事業期間	実際の事業期間
測量・調査・設計	平成 24 年度～平成 25 年度	平成 24 年度～令和 2 年度
用地取得・補償	平成 25 年度～平成 26 年度	平成 25 年度～平成 27 年度
工 事	平成 26 年度～平成 27 年度	平成 25 年度～令和 2 年度

- 関係地権者との交渉に不測の日数を要し、用地取得・補償の期間に遅れが生じた。
- 平成 29 年度に工事区間内で切土法面の変状が確認され、調査・設計及び対策工事に時間を要したほか、令和元年の台風第 19 号により切土・盛土法面や道路側溝などの排水施設が被災し、復旧（手戻り工事）等に時間を要したため、事業期間が延伸した。

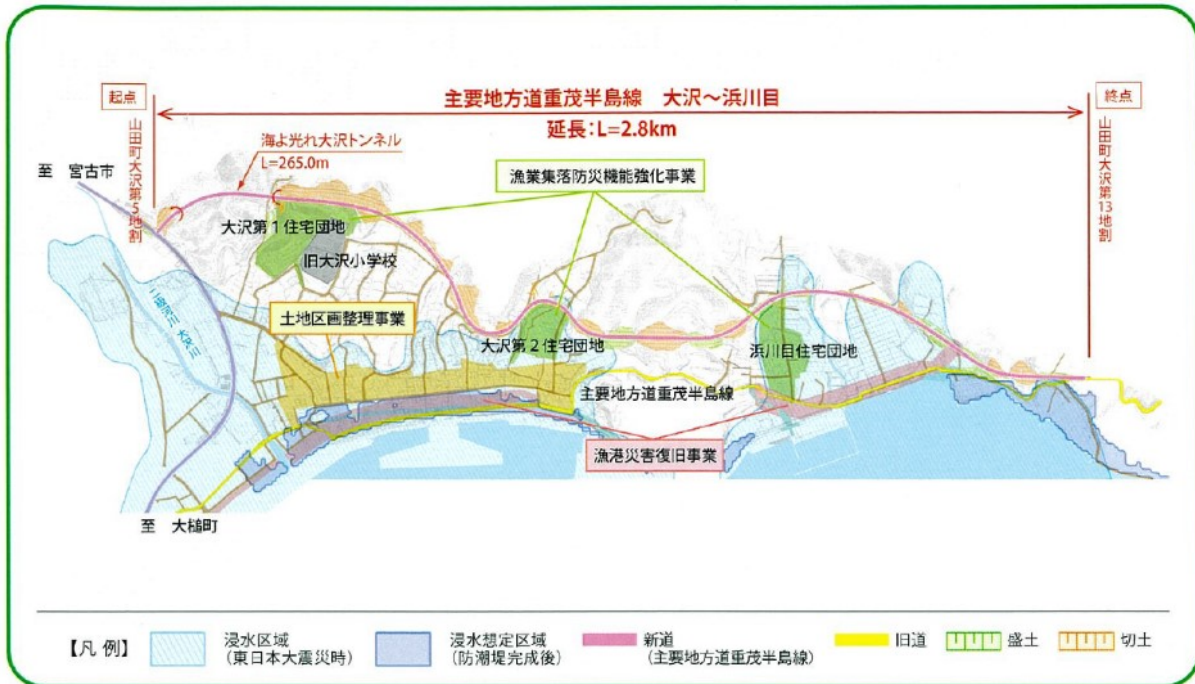
[評価]

上記のとおり、工事区間内で確認された切土法面の変状への対応や令和元年度台風 19 号の影響による手戻り工事への対応によって、事業期間が延伸したものであり、道路整備のための期間としてやむを得ないものと考えられることから、事業の手法は妥当であったと判断する。

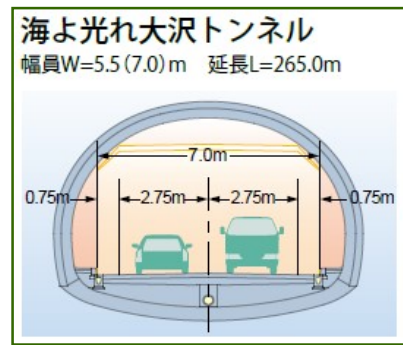
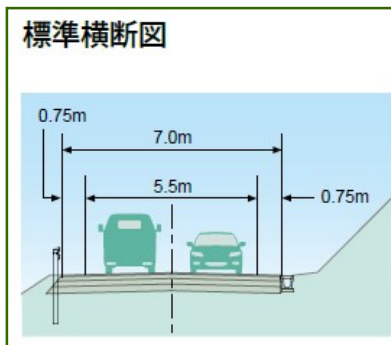
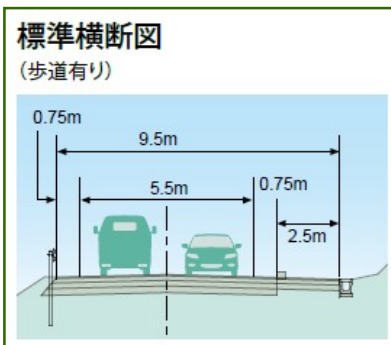
事業担当部局

岩手県 県土整備部 道路建設課 電話番号：019-629-5869

D-1-6 まちづくり連携道路整備事業 (大沢地区)(主)重茂半島線 大沢～浜川目



【整備区間】



【整備前の県道の被災状況】



【整備後の新県道の状況】